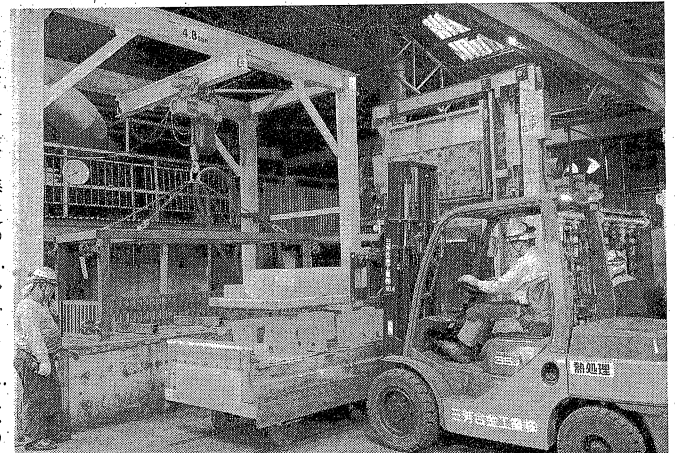


溶解炉設備整え大物受注狙う

特殊銅合金の铸造や鍛造を手がける三芳合金工業（埼玉県三芳町）は、「大物製品」の新たな受注獲得を狙い、運搬能力4.8トンの大型クレーンや大型の金属製铸造金型を導入。従来1基ずつしか動かせなかった溶解炉を1電源で2基同時に稼働できるような

三芳合金工業は4.8トンの大型クレーンを導入したことで従来よりスケールの大きい仕事を受注できるようになった

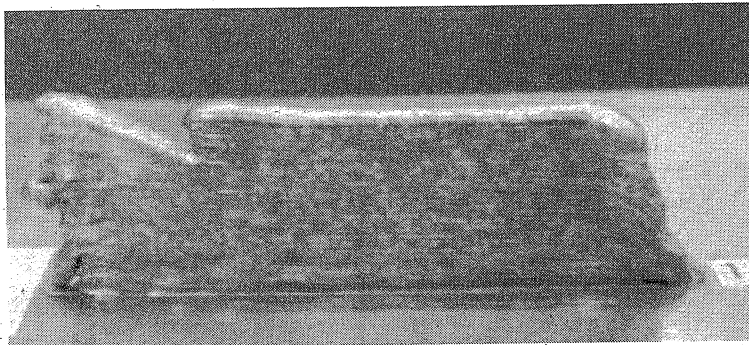


稼働できるようにして、一度に5・5トンのインゴットを铸造できるようにした。

エネルギーや重工産業などで大物の銅合金の需要が増えているほか、大手企業の撤退などもあり、受注が増えつつある。

萩野源次郎社長は「幅広い受注に応えられるよう今から設備を整えている。近々、エネルギーや重工産業、プラスチック用金型など新たな業界の受注も獲得し、特徴ある素材を作っていきたい」と意気込む。

同社は長年素材を供給する国際熱核融合実験炉「ITER（イーター）」計画をきつかけに、自国で計画を進める韓国、英国、イタリアからも大物の銅合金素材の引き合いを取り付けた。今後、独自に開発を進めるスタートアップなどに製品を売り込み、「2〜3年のうちに何かしら結果が出れば」（萩野社長）と市場拡大に期待を寄せる。



三芳合金工業が手がける高強度銅合金